

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年5月30日現在

機関番号：10101

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2010～2011

課題番号：22760482

研究課題名（和文） 旧ソビエト周縁地域における都市空間の歴史的変遷 極東・ウクライナ・中央アジア

研究課題名（英文） The Historic Transition of Urban Spaces in the Peripheral Areas of the Soviet Union: Russian Far East, Ukraine, and Central Asia

研究代表者

井澗 裕 (ITANI HIROSHI)

北海道大学・スラブ研究センター・学術研究員

研究者番号：10419210

研究成果の概要（和文）：

ウクライナ第二の都市ハリコフにおいて現地調査を実施し、その中心街区の再開発事業における首都性の創出に着目し、「周縁の中央化と、その再周縁化」という形での総括を試みた。これに関連した文献調査で43件の関連文献を集めた。結果、ハリコフのレーニン広場とガスプロムは比較的早い時期に政治的象徴としての機能を放棄したためソ連型政治空間をよく保存する重要なモニュメントであるとの結論に達した。

研究成果の概要（英文）：

The applicant investigated in Kharkov, which is the second largest city in Ukraine, and focused attention on the generation of a 'capital' by the redevelopment project of the central area called the 'freedom square'. The applicant overviews the reforming process as 'centralization of periphery' and 'marginalization of created center'. The applicant collected 43 books and documents about the theme, and concluded that the central area of Kharkov was quite an important monument of the social space of CCCP, because the area abandoned the function of the political symbol as a 'capital' in earlier days (1930s).

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2011年度	1,100,000	330,000	1,430,000
年度			
年度			
年度			
総計	2,100,000	630,000	2,730,000

研究分野：工学

科研費の分科・細目：建築学・建築史、意匠

キーワード：ウクライナ、ハリコフ、ガスプロム、近代建築、都市計画、建築意匠、ロシア建築、ソビエト連邦

1. 研究開始当初の背景

研究代表者は、平成19年～20年度に実施した「近代サハリンにおける社会変動と市街地変容（ユジノ・サハリンスクを中心に）」（科学研究費補助金（若手B）課題番号：19760443）において、ユジノ・サハリンスクにお

るフィールドワークと文献収集を実施してきたが、ソビエト連邦における都市形成の研究に蓄積が乏しく、なかんずく極東などの周縁地域ではほとんど見られないことを改めて痛感した。モスクワやサンクト・ペテルブルグなどロシア中枢部の都市については一定の研

究蓄積が認められるものの、これらと周縁地域との普遍性や相違性についてはほとんど言及されてこなかった。ユーラシア大陸に存在する都市の多くが 20 世紀においてソビエト連邦の影響下で計画・建設されてきたにも関わらず、これに対する知見が大きく不足する状況にあった。

2. 研究の目的

本研究は、かつてのソビエト連邦における広大な「周縁」地域を対象にし、文献調査と現地調査によりソビエト期に建設された都市の空間的特質や伝統的空間の変容過程を明らかにするとともに、ポスト・ソビエト期における実態の変化をたどることで、中部ヨーロッパ・中欧アジア・シベリア極東地域にまたがるソビエト的な空間理念とその実相、伝統的都市空間とのつながりや、現状に至るまでの社会的変動との関わりなどを総合的に考察するものである。

3. 研究の方法

(1) ソビエト連邦以前の (伝統的) 都市空間の特質とその変化

それぞれの対象地域について、19 世紀までの伝統的都市の空間的特性と、日露戦争・第一次世界大戦・ロシア革命をはじめとする 20 世紀初頭の社会変動とこれに呼応した空間的変容を明らかにしていく。具体的には、サハリンやロシア極東の主要都市に関しては、申請者の前記研究や佐藤洋一による一連の研究成果があるため、これを深化させる方向で論を進める。中央アジアについては 19 世紀に本格化する帝政ロシアの進出に伴うタシケントの空間的変貌を市街地構造の変化という観点から考察を加える。同様に、近代におけるウクライナの社会的変遷がハリコフの地政学的な重要性をどのように変貌させたのかを軸として、ロシアとウクライナの狭間で翻弄された地方都市のありようを検討する。

(2) ソビエト期の都市空間における理念と実態

時に「モスクワシステム」と通称されるソビエト連邦下における都市空間の形成理念が周縁地域において実際にはいかように形を変えながら展開していたのかを、それぞれの対象地域について、市街地空間の実態的調査に基づいて検討・考察する。ユジノ・サハリンに関しては、申請者の既往研究が存在するため、同様の調査活動を他の対象地域に適用する方向で研究を進めていく。例えば、ユジノ・サハリンについては、ソビエト期の都市建設についても年代によって規模的・質的な差異が認められるのだが、同様の状況が他地域にも見られるのかなど、研究成果を比較対象として活用しつつ、検討を加えたい。

(3) ポスト・ソビエト期における空間的変容

対象市街地の近年来の現代的变化に着目することで、ポスト・ソビエト期において都市空間理念がいかなる変容を見せつつあるのかを、これも実態的な調査に基づいて考察していく。社会体制・経済体制の破綻と移行が、従来の社会主義的空間システムにいかなる影響を及ぼしていったのか、あるいはそこに見いだされる地域差を比較することで、共時的小および通時的な視野からのソビエト型都市の歴史の意味を改めて論じる機会としたい。たとえば、ユジノ・サハリンについては、急激なモータリゼーションが深刻な交通問題を惹起するばかりでなく、中心部と郊外を問わず慢性的な駐車場不足と、そこに端を発するスプロール現象の引き金となっているが、これと比肩しうるような現代的な空間的変容が、他地域においていかなる形で存在しうるのかを改めて調査・検証していきたい。

4. 研究成果

ウクライナにおける都市建設に関しては、ロシア連邦との国境に近い第二の都市ハリコフ (ハルキウ) においてフィールドワークを実施し、その中心街区の再開発事業における首都性の創出に着目し、ソ連型都市建設システムの成果としての特質として、「周縁の中央化と、つくられた中央の再周縁化」という形の総括を試みた。

つまり、ソビエト政府が内戦期におけるウクライナ民族主義勢力に対抗する拠点として首都を構えたのがハリコフであり、その中心として、かつての城塞地区と思われる部分に巨大なレーニン像を中心とする広場 (Площадь Свободы) を建設し、広場の最奥部にガスプロム (Дома государственной промышленности) と呼ばれる国際様式のモニュメンタルな建築を配することで、きわめて科学的な新社会の中枢部の象徴をつくりあげようとしていた。

具体的には、1923 年に若手建築家 В. Троценко のプロジェクトが地区計画コンクールに勝利した。これは中央の緑地を取り囲むようにして中心角 270 度の扇形街区を形成し、これを三等分してガスプロム・ハリコフ国立大学などの建物を配するものであった。彼のアイデアに基づき、1925 年にこのフレームワークに基づくコンクールが実施され、Площадь Свободы の原案が完成した。現在、この広場の総面積は 12 ヘクタールに及び、世界で最も大きな広場の一つとなっている。

この広場の構成要素の中で特筆すべきはガスプロムである。1925 年にこの巨大建築の設計コンクールが実施され、その結果、レニングラードの建築家である С. Серафимова・С. Кравца・М. Фельгера の案が一等当選とな

った。国際様式的な風貌をもつ高層建築が対称的かつ複雑に複合するガスプロムのファサードは、現存するロシア・アヴァンギャルド建築の中でも高く評価されるべき完成度を誇っている。現状ではやや損傷が目立つものの、創建時の状況をよくとどめている。

1929年にはガスプロムの両翼となるハリコフ国立大学の設計がC. СерафимовымとM. Зандберг-Серафимовойの手でなされた。これはガスプロムに比して装飾的な要素が目立つものの、複雑な立面構成は広場のモニュメンタルな性格を大きく補強したものであった。

ガスプロムを中心とする広場計画は、近代建築の非伝統的な性格を活用することで、ソビエトの新規性と科学性を強調し、伝統的な正教的帝政的な旧社会との訣別を演出しようとしたのである。しかしながら、1934年にキエフがウクライナの首都に復帰すると、ハリコフのもつ政治的象徴性は急速にその意義を失うこととなった。

この広場のモニュメンタルな性格は、第二次世界大戦時にハリコフを占領したナチスドイツが、この広場を破壊しようとしたという逸話でもうかがえる。

戦後のガスプロムにはウクライナ民間放送局が入るなど、その利用用とは変化した。さらに、1991年にソビエト連邦が崩壊し、ウクライナが社会主義体制から脱却することでその傾向はさらに強まった。そのためか、ガスプロムという中央広場は都市機能面での中心性も同時に喪失し、ハリコフは中心軸が非常に埋没した都市空間となっている。だが、ハリコフのレーニン広場とガスプロムは比較的に早い時期に政治的象徴としての機能を放棄したために、かえってよくソ連型政治都市空間のありかたをよく保存する存在となっている。つまり、記憶としてのソ連初期における政治的中心が内包された重要なモニュメントであるとの結論に達した。

しかしながら、諸事情が重なり、本研究期間中は十分な分析・考察を行うことはできなかったことは付記しておかなくてはなるまい。そのため、学会発表や雑誌論文については、副次的な成果であるシムシユ島の戦闘や、サハリン州コルサコフに関する空間変容に関する論考にとどまっている。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計5件)

- ①井潤裕、占守島・1945年8月、境界研究、2巻、31-64、2011年、査読有
- ②井潤裕、「占守島の戦い」再考：「8月15日史観」を問い直す、別冊「環」日本の「国境

問題」：現場から考える、19巻、2011年、85-96、査読無

[学会発表] (計8件)

- ①井潤裕、知られざる北の国境(1) 占守島・1945年8月、石狩市民カレッジ(招待講演)、2011年11月8日、石狩市花川北コミュニティセンター(北海道)
- ②井潤裕、樺太の街並と名建築の物語、「樺太 知られざる国境」展 関連講座(招待講演)、2011年10月22日、利尻富士町りぶら(北海道)
- ③ITANI Hiroshi、Mobile Border and Townscape: A City in Sakhalin, Korsakov, BRIT (Border Regions in Transition) XIth Conference, "Mobile Borders", 2011年9月8日、University of Geneva (Switzerland)
- ④ ITANI Hiroshi、Sakhalin-Kuriles: The Prospects of the Japan Russia Border Changes, Eurasia Borderlands Review (Seminar organised by: Centre for Eastern Studies (OSW) (Warsaw), Slavic Research Centre (SRC) (Sapporo), 2011年9月2日、Centre for Eastern Studies(Warsaw,Poland)
- ⑤井潤裕、樺太の街並と名建築、「樺太 知られざる国境」展 関連講座(招待講演)、2011年7月16日、オホーツクミュージアムえさし(北海道)
- ⑥井潤裕、占守島・1945年8月、「樺太 知られざる国境」展 関連講座(招待講演)、2011年6月11日、岩見沢市コミュニティプラザ(北海道)
- ⑦ ITANI Hiroshi、Korsakov and Odomari: Transition of Border and Landscape, Western Social Science Association: 53rd Annual Conference (Association for Borderland Studies), 2011年4月16日、Salt Lake City Center(Utah,USA)
- ⑧ 井潤裕、Формирование и развитие бумажной промышленности на Карафуто, международной научно-практической конференции «А.П.Чехов и Сахалин: взгляд из XXI столетия» («樺太における製紙産業の形成と発達」)、国際学術会議「A.P. チューホフとサハリン：21世紀からの視点」、2010年9月22日、ユジノ・サハリンスク(ロシア)

[図書] (計0件)

[産業財産権]

○出願状況(計0件)

○取得状況(計0件)

[その他]

ホームページ等
無し

6. 研究組織

(1)研究代表者

井潤 裕 (ITANI HIROSHI)

北海道大学・スラブ研究センター・学術研究
員

研究者番号：10419210